

事業の目的

道路下等の老朽化した埋設管の漏水位置の特定する技術が求められています。農研機構では、**農業用の地下埋設管の微弱な漏水音を捉え、劣化箇所等を特定する「カプセル型漏水位置検出装置」を開発**しました。今後、この漏水音解析精度をさらに高めるとともに、**上水道等への応用**を図り、広く事前防止対策に役立てることを目的とします。

事業の内容

(現状・課題)

- 埋設管の老朽化が全国で進行しており、上水道等の農業用以外も含めると**年間数万件の漏水事故が発生**しています。
- 地下埋設管の老朽化の程度は計測が難しく、また、それら情報を共有する仕組みも存在しないため、**計画的な補修・更新が困難な状況**です。

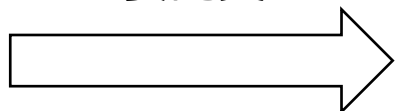
(取組内容)

- カプセル型の**漏水探査ロボットの高精度化及び対象領域の拡大**をするための技術改良を行うことにより、地下埋設管内の**漏水位置を特定可能**とします。
- また、老朽化した埋設管の計画的な補修・更新が可能となるよう、**得られた測定データ等を管理者のほか、国や自治体等と共有するシステム**を開発します。

事業のスキーム

委託費

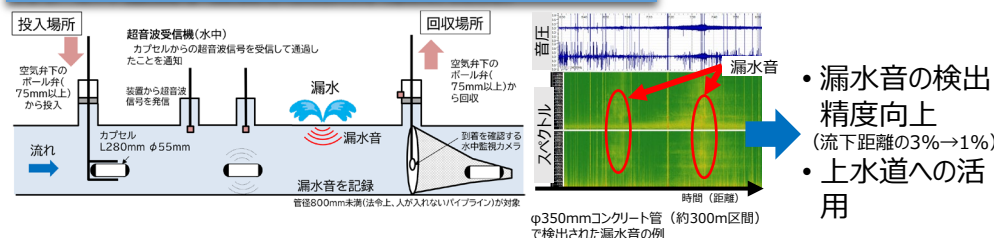
国



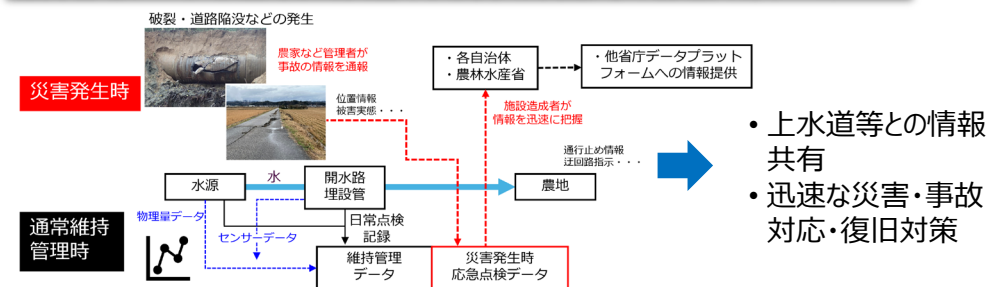
民間団体

実施イメージ・具体例

カプセル型漏水位置検出技術(農研機構)



維持管理データを活用した災害や突発事故発生時の情報共有ツール



事業により得られる効果 (アウトカム)

地下埋設管の漏水箇所を特定することにより、自治体等の**管理者による計画的な補修・更新が可能**となり、道路の陥没事故等の事前防止につながります。